

アニマシオン

animación

商標登録 第5139682号

特定非営利活動法人日本アニマシオン協会

商標登録 第5139681号

会報 2号

2008年12月23日(火) 発行

編集人/塚本 美樹 発行人/黒木 秀子

〒274-0825 千葉県船橋市前原西2-11-5 松田第三ビル2F
TEL 047-402-3111 E-mail info@animacion.jp
FAX 047-402-3061 URL http://animacion.jp/

小さいころ好きだった本の力

黒木 秀子

子どもたちといっしょに本を読んでいると、自分が小さかったころの読書を自然に思い出し、振り返ることがしばしばです。小さいころ好きだった本を改めて読み返して、自分というものが作られていったプロセスを思い出すことがあります。そんなときに浮かぶのは「本の力」という言葉。
このころは「力(ちから)」という言葉のブームでしょうか。「学力」はいうまでもありませんが、「〇〇力」という言葉が世間にあふれていますね。斎藤孝さんの「読書力」赤瀬川原平さんの「老人力」から始まって、「仕事力」「質問力」「人間力」...、清水真砂子さんの書名「幸福に驚く力」等々。
それらは自分(たち)は「力」を持っている!という願いが込められた言い方だと思えますが、「本の力」というのは逆を向いています。「力」は自分の内には無く、他者から施されるという経験や考え方でしよう。本(他者)の言葉に力があり、それによって人は変わっていくことができるという確信を表した言葉だと思えます。
特に子どもの読書では「好きな本」「好きだった本」が及ぼす影響は本場に大きなものだと思います。今回は、その大きな力を描いたイェラ・レップマンの著書を紹介しよう。

『子どもの本は世界の架け橋』

こぐま社から二〇〇二年に翻訳刊行されたこの本は、一九六四年にドイツで出版されたものです。
著者イェラ・レップマンは一八九一年にシントウツガルトでユダヤ人を父親に生まれました。イェラが三歳のときに夫は第一次大戦中に負った怪我のために亡くなり、彼女は二人の子どもを育てるためにジャーナリストとして働き始めます。しかしヒトラーの台頭により職を失い、一九三六年に子どもたちとともにロンドンへ亡命しました。

ロンドンで終戦を迎えたイェラは雑誌編集の仕事に精力を注いでいました。そんなある日、アメリカ軍の大佐が扉を叩いたのです。ドイツのアメリカ軍司令部で、アメリカ占領地域の女性と子どもの文化・教育についてのアドバイザーになってくれなさいかと。母国の荒廃に心を痛めていたイェラは、逡巡の末にその申し出を受けました。そして、亡命によって後には母国ドイツへ、今度は占領軍の飛行機に乗って(しかも占領軍の軍服を着て!)降り立ったのです。

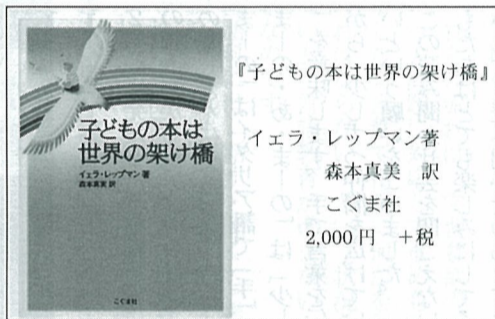
このときイェラは五四歳。この本はここから始まります。
「精神の栄養」を子どもたちに! ドイツの各地をジープで回るイェラの目に映ったのは敗戦と、それから十二年間にわたるナチの統治が人々に残した深い傷跡でした。さまざまなきっかけで語られます。ナチを嫌

悪しつづき延びた人が独白する後ろめたさ。あるいはまた、奇跡的に強制収容所から救出されたユダヤ女性、満員電車の中で周りの人に向かつて自分に席をゆずるように迫る姿。「私は強制収容所にいたのですから、あなた方よりも座る権利があります!」...

一方、ナチ時代をひたすら懐かしむ人々もいましたし、街には、浮浪児となつて物乞いをする子どもたちの姿もあふれていました。
アメリカ軍の占領方針は、こういつたドイツの人々の「再教育」であると示されました。しかしイェラは、人々の心を立て直すために必要なのは教育プログラムではなく、精神的な栄養なのだと思えました。

精神を健康に明るく保ち、自由や正直さや勇気を大切に考えられるようになる「栄養」、それは優れた子ども本ではないだろうか?とイェラは軍に提案しました。しかし、十二年間の間に自由な精神を尊重する本は禁書とされ、ナチによって焼かれていました。さらに、空襲によってドイツの図書館蔵書は壊滅状態にありました。
『子どもの本は世界の架け橋』の国際理解

こぐま社から先は、どうぞ実際にこの本をお読みになってください。
イェラ・レップマンは後に「国際児童図書評議会(IBBY)」を設立し、世界中の子どものために本を手渡す運動の創始者となりました。日本にも「国際児童図書評議会(IBBY)」が作られ、穏やかなけれども力強い活動が続けられています。



『子どもの本は世界の架け橋』
イェラ・レップマン著
森本真美 訳
こぐま社
2,000円 + 税

動が続けられています。
この本で語られているのは、他の誰もが考え付かないようなアイデアを発想し、しかもそれを驚くほどの行動力で実現に至らせた、ひとりの女性の卓抜した仕事の軌跡です。

一九四六年、ミュンヘンで「第一回国際児童図書展覧会」が開催されました。敗戦国ドイツが再び世界に理解され、国際交流が可能となるためにイェラが選んだのは「子どもの本」というツールだったのです。
初めはアメリカ軍の中でも、この発想はまったく理解されなかったことが書かれています。しかし彼女は、戦火を交えた当の相手国であったヨーロッパ諸国へ、ドイツのために各国が保有する子どもの本を貸し出してほしいと依頼をしました。
「子どもたちのためならば」と応じてくれた国もあれば、「ドイツへそのようなことをするのは国民感情が許さない」と返事をしてきた国も。粘り強く依頼を続け、ついに(と言っても

本年8月から協会ホームページに掲載中の「黒木秀子のアニマシオン日記」が100篇を数えました。黒木が皆様のところにお伺いした時の楽しいエピソードや、アニマシオンを実施するときのヒントなどが日記形式で掲載されています。

1月下旬に『黒木秀子のアニマシオン日記1~100』を冊子の形で会員の皆様に配布できることになりました。

アニマドローラの太田克子氏へのインタビューも合わせて掲載予定です。

小さいころ好きだった本の持つ力

私は、子どもの本が世界の人々をつなぐという考えは、ヒューズマンだけではない、別の大切な一面を有していると思えます。
それは、どんな人にも「小さかったころ」があり、小さなころに身近な人から聞かされたお話や、読んでもらった本や絵本の記憶は、私たち誰でも心の奥に眠っているものだからです。普段は表に出てくることも無いその記憶がふとしたときに蘇ると、自分の子ども時代(の)どうしようもない懐かしさと共に、今、子どもである小さな人々へのいとおしさが湧いてくるように感じます。

実は私がこのレップマンの本を読んで一番心に残ったのは、ピンポイントでそれが描かれた箇所でした。
ミュンヘンの国際展へ、アメリカ軍将校の夫人がやってきました。気の無げな子で展示を見ていた夫人は、ドイツの古典的な絵本のアメリカ版をみつけると、これは自分が小さいころに大好きだった本であると言い、一節を暗誦し始めたのです。そして、これはドイツ(ナチズム)によって世界を破壊に至らそうとした国という意のなのなのか?と大いに驚いたというシーンが描かれています。
自分が小さなころに好きだった本、それが昨日までの敵国のものであったとしても、その本を好きで好きで暮らした幼少期は、その人の人生の宝です。自分の中に棲む「小さなころ」の自分が、子どもの本には国境がないこと、共有できる思い出をもつたこと、人の「ともだち」が世界中に居ることを知らせてくれるのだと思えます。
イェラ・レップマンは、人が、自身の幼少期という深い場所から動かされる時に大きな力が働くことを見抜いていた女性だったのだと、この本を読んだつづき感じました。

好きだった本、好きだった人

小さなころに好きだった本を思い出

協会設立の趣旨

アニマシオンとは「活性化」という意味で、ヨーロッパで青少年の文化活動に関して広く使われてきた言葉です。

私たちは、スペインのモンセラット・サルトさんが開発した「読書へのアニマシオン」を学ぶグループです。アニマシオンという読書教育法を通じて、質の高い読書を進められることも育てたいと考えています。

協会の活動目標は、系統的、計画的な読書教育としてのアニマシオンの各地での実施を支援することであり、主に以下の三つの事業を行います。

- ① アニマシオン実施用の図書の貸し出し(送料のみ利用者にご負担いただきます)
- ② アニマシオン紹介のためのイベント、講演会等
- ③ アニマシオンの実施のための研修、講師の養成

協会ホームページもご覧ください

http://animacion.jp/ では最新の情報をお届けしています。

『黒木秀子のアニマシオン日記』
理事長・黒木がアニマシオンにまつわる様々な内容を日記に書いています。使用図書と作戦の話、出会った方々とのエピソードなど、アニマシオン実施のヒントが盛りだくさん。

『アニマシオンのお知らせ』
協会のメンバーは各地でアニマシオンを実施しています。それらの情報をお知らせするコーナーです。

『アニマシオン図書・貸出状況』
図書の貸出状況や予約状況がわかります。

『リーパーすみ子のページ』
9月の当協会主催のセミナーで講演してくださいましたリーパーすみ子さん。それがご縁で私たちのHP内に日記ページが開設されました。

第2回アニマシオン読書教育セミナー

『気球に乗ってどこまでも』 ~アニマシオンに夢を託して~

2009年3月28日(土) 13時~15時半
講師: 黒木秀子

会場: 龍馬進学研究會 3F 会議室 (JR 総武線「津田沼」駅徒歩3分)
入場料: 一般 1500円 会員 1000円



読書へのアニマシオンとはどんな方法か? それを支える考え方とは? 子どもたちとの実例を引きながらアニマドローラ黒木が語る、本への愛の物語。

各地で行われている活動の紹介

- ①アニメーション倶楽部
- ②群馬県高崎市中央公民館
- ③原則として 偶数月 第1土曜日 13:30~15:00
- ④アニメーションに関心のある方
- ⑤参加1回につき500円
- 参加については、太田までご連絡ください。
- テキストと場所、時間をお知らせします。
- ⑥ 太田克子 (主宰)
- 〒370-1127 群馬県佐波郡玉村町上之手2260-5
- 0270-20-4057 (自宅) 027-361-7000 (学校)
- ⑦読書へのアニメーションを通して、子どもの自立を支援する。子どもたちが、よく考えられるように、自分で判断できるように、自分で人に伝えられるように。ひとりで生きていけるようになってほしいと思います。そのため、読書へのアニメーションの研究を行い、その普及と向上に努めます。▲私たちの倶楽部は、いつも、予読本に、1冊は少し厚い本を入れています。小さい子ども向けのものと、大きい人向けのものと、両方楽しんでいます。少し厚い本を読むのは、たいへんだと思うこともあります。必ず、大きな充実感が味わえます。前回の扱った本に関するミニ情報など、持ち寄って新しい発見があったり、学校での実践の様子を情報交換したりします。楽しんでます。

- ①市原市 子どもの本を学ぶ会
- ②千葉県市原市五井「市原市Youホール」
- ③第1土曜日・13:30~16:00
- ④子どもの読書に関心のある方はどなたでも。
- ⑤平成20年度 全9回:8,000円 (一回のみ参加の場合:1,000円)
- 事前にお申し込み頂くか、当日会場において下さい。
- ⑥主催者「二見小百合」まで
- 電話・ファックス 0436-66-1514
- Eメール futami@icntv.ne.jp

⑦子どもたちに良い本を手渡したい大人の集まりです。平成17年度から開催し4年目になりました。黒木氏(日本アニメーション協会・理事長)によるアニメーションの遊びの楽しさと、読書のお稽古に魅せられて、皆、忙しい時間を何とかやりくりして集まっています。隔年三月には、「まとめの会」として作家・翻訳家などをお呼びした特別講座も行っています。是非、仲間になって下さい。

- ①ジャングルジム
- ②千葉県佐倉市中央公民館
- ③6月から2月まで(12月を除く)毎月1回(年間8回)
- 第4日曜日9:30~12:30
- ④小学校1年生クラス 金子志乃さんと木田川、黒木先生の指導です。
- 小学校2,3,4年生クラス 黒木先生のアニメーション
- ⑤参加費 年8回分 1年生クラス 2,400円
- 2,3,4年生クラス 4,000円
- ⑥主催者「木田川直子」までTEL 043-486-1654
- http://www.geocities.jp/junglejym1997/
- ⑦読書へのアニメーションは今年で5年目で、千葉の黒木先生の学習会に参加していた時に、だめもとで黒木先生をお願いしたところ、佐倉にお運びいただけることになりました。市内の小中学校を通して全児童にチラシを配布と体験会を開催。その際、アニメーションについてと、事業説明を行い、賛同される方は連続アニメーションに参加していただくことにしています。

公共図書館でのアニメーション

青柳啓子

青柳啓子さんは、1997年にモンセラット・サルト著『読書で遊ぶアニメーション』(柏書房)を佐藤美智代さんとともに日本語訳された方です。佐藤さんは同書のスペイン語版から、青柳さんはイタリア語版から翻訳作業をなされ、その突き合せで日本語訳が完成しました。

その後、青柳さんは山梨県勝沼町の図書館で職員の方々とアニメーションの勉強会を重ね、公共図書館におけるアニメーション継続実施の可能性を追求して来られました。また、甲府市内で定期的な「絵本サロン」を開くなど、子どもの本の紹介とアニメーションの普及活動の最前線に立られている方です。(編集部)



アニメーション体験講座 於山梨大学

実践の歩み 10年を振り返る

同じ山梨県在住の佐藤美智代さんと「読書で遊ぶアニメーション」(柏書房)を共訳し、出版となったのが1997年。それ以来、アニメーションに私自身が夢中になりながらも、この魅力の源は何だろうと考え、探りながら実践を続けているうち、十年があつたという間に過ぎてしまいました。

出版当初は「ヨーロッパの子どもに合うものが、日本の子どもにも合うとは思えない」とか「本を人数分そろえるなんて、現実的には不可能」などと、実践以前に否定的に見られることが多かったのですが、ここ数年は小学校や司書グループの研究会また社会教育講座や大学でもワークショップを開いてほしいという要請が多くなってきました。

これは、アニメーションにより子どもたちが楽しんでいてというその場だけの効用ではなく、「深く読み取り自ら考える読書をめざす」という方針が、優れた読書教育のひとつの方法として評価されてきた結果だと思われ、アニメーションは実際の現場では継続してこそ真価を発揮するもの。ここでは、定期的に継続し私が現在関わっている活動について報告します。

カムカムクラブ

山梨県甲州市立勝沼図書館では9年からアニメーションを図書館でも採り入れようと、職員研修を実施しました。月末の休館日に全職員が参

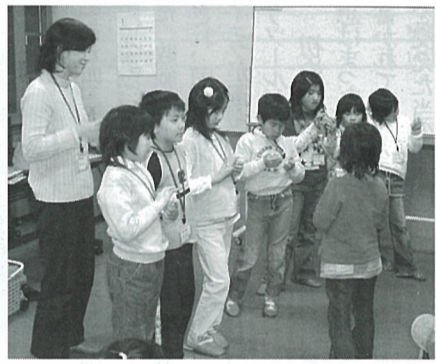
加するアニメーションを14回重ね、私もここでアニメーターとしての経験を積ませていただきました。こうして十分に準備した上で、不定期に子どもを集めるイベント型のアニメーションを始めました。しかし、子どもたちの定期参加がなければ、アニメーションの効果も十分には期待できません。

そこで、2003年から小学校3・4年生を対象にメンバーを募り、20名で月1回活動する読書クラブ「カムカムクラブ」をスタートしました。

活動日の1ヶ月前に本を決定し、県内図書館より20冊の本を集め、子どもたちに本を借りに来るようにお便りを出し、当日までに各自読んできてもらいます。部屋で本を読むだけでなく、春には市内の遠足に出て戸外で読聞かせしたり、秋の図書館フェスタには、カムカムクラブのメンバーが来場した子どもたちに本のクイズを出したり、お菓子がでてくる本を読んだで作戦を実践した後で、公民館でそのお菓子を作ってみたいと、多様なプログラムを提供して本を読む子どもを育成しています。また修了式には記念品として、本を1冊プレゼントします。

市内の小中学校からバラバラに応募してきた子どもたちは、4月には自己紹介をするのがやっとという恥ずかしがりやさんが多いのですが、だんだん雰囲気慣れてきます。国語力がアップしているのの効果までは正直わかりませんが、3月には個人差はあれきちんと自分の言葉でコメントできるようにという成長ぶりを毎年感じるようになります。

公共図書館が読書教育にアニメーションを取り組んでいる先進的な例として、今年の山梨県図書館大会で実践発表の機会をいただきました。公共図書館をめぐる状況は年々厳しくなっていますが、今後も職員の方たちと協力してぜひとも続けていきたい活動です。



カムカムクラブ 「前か後ろか」

まーのあまーの

2年前に発足した聴覚障害児に手話の読み聞かせとアニメーションで本の楽しさを伝えるグループです。「まーの」はイタリア語で「手」で「まーのあまーの」は「少しづつ」を意味します。手で言葉を伝えながら、少しずつ仲間を広げていきたいという願いをこめました。

この読み聞かせ会を聞かえない子どもたちはとても楽しみにしてくれています。読み聞かせのあとアニメーションを探り入れることで子どもたちがどれだけの内容を理解しているかわかり、ここでもアニメーションは欠かせないものになっています。

大人のための絵本サロン・おいしい月

大人が1冊の絵本を読んで食事と

もに楽しむ大人のための遊びです。うちで経営している甲府市のイタリアンレストランでこれまで19回実施しました。佐藤美智代さんの協力をいただいて最近外国の方も参加しているのですが、また全然違う視点やバリエーションになってきました。やはり、アニメーションには多様性を尊重するということがあるんだと再認識しています。

本を通して、アニメーションで人がつながり、子どもも大人も幸せになること。それが私の願いです。

- ①多摩アニメーションの会
- ②国立市谷保 6792-2 丸山氏自宅
- ③偶数月 第3土曜日 14:00~17:00
- ④アニメーションに興味のある方ならどなたでも。(教員や司書の方が多いのですが)
- ⑤参加費 1回2000円 事前申し込みいただくか、当日会場においてください。
- ⑥主催者「丸山亮子」まで TEL&FAX 042-580-4535
- ⑦予読本を設定してのアニメーションと、黒木氏(日本アニメーション協会・理事長)をお呼びして当日実施可能なアニメーションの2本立てで勉強会を行っています。参加者同士の交流や、本にまつわる情報交換が盛んです。

連載リレーエッセイ 第3回 小さい頃好きだった本

子ども心をつかむ
天田 比呂志
子どものころ実現したくないな、と思っていたこと。タイムマシンに乗って過去や未来を、自由に往き来すること。大人たちに知られない秘密基地をつくり、そこに住むことなど、夢と現実の世界とがなやませになっていました。

そんなとき大好きな伯父の家に一人で泊まりに出かけたところ、逗子海岸での海水浴に連れていかれていました。帰りのバスを待つ間に買った本は、小学校三年生の私にとって衝撃的な内容でした。「外国の子どもってこんなに大人なんだ」離れ小島に漂流するなんて大変なことだけど、ブリアンやゴードンたちは何と幸運なことが続いたんだ。「自分たちの基地があるなんてうらやましいなあ、しかもそこには大人たちが一人もいないんだから。」子ども心に冒険心を駆り立てられた。それは確か借成社の『十五少年漂流記』だったと思います。一ページ一ページめくって行くのもどかしく、伯父の家にいる一時間くらいで一気に読み終えてしまったと記憶しています。

時あたかも東京オリンピック。色々色んなカラーテレビに感動し、選手活躍という事実に感動し、特に重量挙げの真似をしてコンクリートブロックを壊して叱られました。それでも、三宅義信さんのポーズを真似しては、表彰式ごっこをしていたのがつい昨日のようです。見たことに対し、素直に感動できる純真な心がまだあったようです。

昭和二十九年、群馬県の片田舎の小中学校で過ごしていた私にとって、大人の階段を一段上ったと実感できることが起こりました。「図書室から本を借りられる」ようになったのです。しかも購入したばかりの本がずらっと並んでいたのです。よくよく見ると「伝記」でした。(純真な)天田少年は、本当に起こった(という風に書かれている)伝記を次から次へと読みふけり、貸出しカードの書名が増えいくのを楽しみにしていました。事実のもつ説得力に納得していたのだと思います。そんなときに出会ったのが『十五少年漂流記』

「今日が楽しかった」「本好きになりました」という子どもたちが、「仮面をかぶった本好き」に決しなければならず、明日からも読書へのアニメーションをしようと思いたった

だったのです。当時のことですから十分な知識もなく、まして『フィクション』などというものは思いもよらず、ドノバンやブリアンの活躍に一喜一憂して何度も読み返していたようです。そんな熱から少し覚めたころ、本のとがきに「空想」という一語を見つけた。それまで、本というのは本当のことだけが書いてあるものだと思っていた私は、少々落胆したのかすかすかに記憶しています。それ以降、本への興味が次第に衰えてしまいました。

「本に書いてあることって嘘なんじゃないか」「そういういえば、道徳の授業に出てくる話なんか余りにもよく出来過ぎて話じゃない」「そんな思いついていました。早稲で生意気で『フィクション』への不十分な理解の少年は、表向きは本好きな子どもを装いつつ、内面では本嫌いな少年へと変身してしまいました。大きな感動と落胆を同時に与えてくれたこの本は私にとって思い出深い本です。以後、『フィクション』の面白さを実感する『源氏物語』に出会うまで、仮面を外せませんでした。

それだけ、『十五少年漂流記』(原題「二年間の休暇」)には、子ども心を取り立てる力があったのかもしれない。現にこの原稿を書くために改めて読み返したところ、心躍らせて一気に読んでしまいました。

子どもたちによい本を届けることも必要ですが、その子どもにとって「本当に必要な本」を届けることも同時に必要な要素ではないかと思っています。読書へのアニメーションを実際に行っているとき、本当にこの本でよいのだろうか、本当にこの本がこの子どもたちにふさわしいのだろうか、自問自答せざるを得ません。



天田比呂志(あまだひろし) 当協会副理事長 群馬県立館林女子高等学校教頭

第一回アニメーション読書教育セミナーの報告

九月二十七日、少年龍馬館にてリーパーすみ子氏と寺井正憲氏千葉大教育学部教授をお招きしての講演会と対談を開催しました。会場には約百十名の来場者が集まり、熱気あふれる中でのイベントとなりました。

リーパー氏は米国アルバカーキ市の公立小学校に図書館司書として勤務し、スペイン語を母語とする子どもたちには絵本を使って英語を教えてこられました。小グループで絵本を読み、「本に何が書いてあったか?」を尋ねていく手法がアニメーションに似ている、「どのよう読み力をつけていくか」という課題も私たちと共通です。以下、その概要をお伝えいたします。

【第一部】リーパーすみ子氏講演「絵本で育てる読み力」

素敵な絵本をたくさん使用して、実際にアメリカの小学校で行っている授業をユーモアやエピソードも交えながら再現していただきました。単語の終わりが「キング」「リング」「シング」のように同じ音で終わっているライミング韻。単語が「ベッド」「バス」と同じ音で始まるアリタレーション。そしてシラブルという音節に分けて単語を覚えることも解説されました。優れた絵本は教材としても優秀で、数え唄や遊び歌など、同じ発音が繰り返して出てくるので、子どもたちは楽しみながら単語を覚えてしまふとのこと。他にもピリオドやクエスチョンマークなどの意味を教える絵本や、イラスト

が芸術的でとにかく美しい本などが次々と紹介されました。絵本を読むときは、本をまるごと一冊使い、本にまつわることを全部教えるそうです。作者は誰なのか、絵は誰が描いたのか、何年に出版されたのか、そして著作権についてもまたピクチャー・ウォークといってイラストを初めから終わりまで見せます。その本に対する興味をそそり、ストーリーに対する予備知識を与えるために、さらに本を読みながら色々と質問もします。イラストやキーワードから、次に何が起るかを子供に聞いてみます。推測させることが「読む力」を鍛えることになるとのこと。

また、深く洞察する力を磨くために5W1Hの質問もするそうです。「お母さんはなぜ悲しんだの?」などの問いに答えることは、まさに読

解力そのものだから、とても手間暇のかかることですが、きちんと読めるようになれば、後は多読でも速読でも良いのです、とお話でした。

アメリカの国語英語教育の実際を、まのあたりにすることのできた時間でした。*もっと詳しくお知りになりたい方は、リーパーすみ子著『アメリカの小学校ではこうやって英語を教える』(啓書房)をどうぞ。



【休憩】

簡単なティーブレイクとともに、アニメーション用貸出図書などをご覧いただき、関連書籍の販売も行いました。

【第二部】リーパーすみ子氏と寺井正憲氏対談

まず、国語教育の研究者で新学習指導要領の改訂にも詳しい千葉大学の寺井教授から改訂内容の概要が紹介されました。

国語の新指導要領は「実生活の中で、生きて働く言葉の力」を重要視しています。現在の指導要領も「何かを相手に伝えるコミュニケーション」を設定し



その後の対談では、リーパー氏の実演を受けて寺井教授から本をまるごと一冊使うことのメリットが話されました。教科書はアンソロジーなので奥付の意味も教えられないが、一冊まるごとを使えば本にまつわる色々なこと、目次や索引の使い方も教えられると。

それから図書館司書と教科担任とのコラボレーションについても、実際にリーパー氏が使用した絵本や数え唄などの紹介を中心に具体的な話題がはびきました。米国の小学校では、教科担任から図書館司書に対する評価が出され、その結果をもとに「この点を改善しよう」という前向きな目標が設定されるそうです。そこでモノを言うのがコラボレーションの実際だということでした。

最後に、子供たちの間違いは、「発展段階の途中における間違い」と捉え、温かく見守る必要があること。そして何よりもまず「自分を大切に思う」心を育てることが教育の基本であることとリーパー氏と寺井教授両氏とも口になさいました。

お二人の対談は非常に興味深く、時間の過ぎるのがアツという間でした。(事務局・飯塚)

リーパーすみ子氏講演会感想

リーパーすみ子氏、寺井正憲氏の講演会においでくださった皆様、ありがとうございました。

参加くださった方々から、もっとお二人のお話を伺いたかったという意見や、内容についての感想をたくさん頂きました。アンケートにお答えくださった方、メール等で感想をお寄せくださった方、ありがとうございました。いくつかをご紹介します。

リーパーさんのやっていらっしゃ



特定非営利活動法人 日本アニメーション協会 入会案内

【会員募集】

1. 正会員 アニメーション用図書の貸し出しを受けられます。定期的に会報をお届けします。協会主催の催しでは正会員割引があります。
2. 支援会員 協会の趣旨に賛同いただき、会費を納めることで活動を 支えていただきます。

【入会金・年会費】

1. 正会員 入会金 2,000円、年会費 3,000円
2. 支援会員 年会費 1口 50,000円 (1口以上)

【入会方法】

1. 事務局までご連絡ください。(電話、FAX、メール) 協会案内と振り替え用紙を郵送いたします。
2. ゆうちょ銀行にて会費をご送金ください。
3. 入金確認後、事務局より会員証(会員番号記載)を郵送します。
4. 毎年3月末までにその年会費をご送金願います。

【特定非営利活動法人日本アニメーション協会事務局】

電話 047-402-3111
FAX 047-402-3061
E-mail animacion-iizuka@kna.biglobe.ne.jp

「アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている」

リーパーすみ子著 啓書房 2008.9 定価 1,500円+税

アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている
PHONEMIC AWARENESS

また、リーパー氏が講演中に紹介して下さった本のすべてを、少年龍馬図書館でお預かりしています。閲覧可能ですのでご利用下さい。書名等はリストでご確認下さい。

(事務局 二見小百合)

アニメーション用貸出図書リスト

2008年12月現在

アニメーション用図書貸出状況

貸出総数 201 タイトル、総冊数 4020 冊になりました！
 4月～8月(5ヶ月)までが99タイトル、9月～11月(3ヶ月)が102タイトルで着実に貸出利用が増えていきます。これからも積極的にご利用ください。

貸出しを利用された方からの便り

- Y小学校 K様**
『オバケちゃんとおこりんぼママ』『おんどりボルケ』ありがとうございました。それぞれ3クラスで使用させていただきました。
- H小学校 O様**
お借りしていた図書を返却します。これで小3・小5各6回のアニメーション計画を無事に終えることができました。また来年の予定が決まりましたら連絡させていただきます。
- T小学校 T様**
『あつごの浦』学校公開で使用しました。子ども達も楽しく取り組むことができました。1年生ですのでペーパーサートのようになって、カードを『ここだよ』と言って上げる作戦を使いました。楽しんで本を読むきっかけとなるのではと思います。
- S小学校 T様**
お陰様で2つの作戦が終わりました。子ども達はアニメーションと聞くに喜びようになりました。作戦36は2年生にとっては少し難しかったようですが、読める子は分かっていました。これからもいろいろな本や作戦で、読める子を増やしたいと思います。
- O小学校 U様**
『おんどりボルケ』を使って2年生で親子読書会を行いました。また私のクラスでは校内研究会で親子でこの本を読んでから、アニメーション『ここだよ』を取り入れて授業をしました。家の人に大変好評でした。子ども達と一緒にお礼の手紙を書いたので読んでください。と、素敵な文集のような子ども達の手紙が送られてきました。
- N小学校 O様**
『番ねずみのヤカちゃん』をありがとうございました。作戦12前かな後ろかな、を2年生でやりました。全文だと時間が足りないのではところどころの抜き書きで行いました。難かしくて、あそここうだと考えておりましたが、最後には満足いく結果に落ちていて、皆で知恵を寄せ合った充実感にひたっている様子でした。
- M小学校 K様**
『おじいちゃんの口笛』は絵本の体裁ながら深い内容の作品でした。この機会がなかったら出会えなかったと思っています。すてきな本を教えていただきありがとうございます。5年生の子どもたちも楽しんで取り組んでいたようです。『あつごの浦』は1年生でやってみました。大喜びでした。
- H小学校 S様**
『しっぽのきらいなネコ』で作戦29物語を語りました。をやりました。お話の魅力もさることながら、絵にひきつけられた子も多く、『3匹の仲間が噛みついたから腫れたところが3ヶ所だ』とか、『このあと白いネコと結婚して赤ちゃんが生まれるよ』とか細かい所まで見ていた発言が多く出ました。9月から駆け足で取り組んだアニメーションでしたが、予読に取り組みせることで丁寧に注意して本を読むとする態度が少しずつ身につけてきたと思います。太田克子先生に講師に来ていただき、たくさんアドバイスをいただいたこと、そしてこれからのヒントをいただきました。

No.	書名	No.	書名	No.	書名
1	8つのお話 思い出の子どもたち	48	グリーン・ノウのお客さま	95	ボクの音楽武者修行
2	赤い鳥の国へ	49	クリスマス☆キャロル	96	ぼくは「つばめ」のデザイナー
3	あつごの浦	50	クローディアの秘密(岩波少年文庫)	97	星の牧場(フォア文庫)
4	アルケミスト 夢を旅した少年(角川文庫)	51	黒ねこのおきくさま	98	ポストマン
5	アンソニー はまなす写真館の物語	52	賢者のおくりもの	99	マクス
6	イゴールの金のすず	53	コンチキ号漂流記(偕成社文庫)	100	まさかりどんがさいたいへん
7	イワンのかげ(岩波少年文庫)	54	小犬のピピン	101	魔の海に炎たつ
8	海からの贈り物(新潮文庫)	55	狐笛のかなた(新潮文庫)	102	まるいにく
9	うみのないしまだけぽんとだよ	56	最後の葉(集英社文庫)	103	魔法のスリッパ
10	海辺の王国	57	最高のおくりもの(集英社文庫)	104	三つのお願
11	墓庭(新潮文庫)	58	ジェレミーとドラゴンの卵	105	みどりのゆび新版(岩波少年文庫)
12	運命の王子	59	しっぽのきらいなネコ	106	無人島に生きる十六人(新潮文庫)
13	エルシー・ビドック、ゆめでなわとびをする	60	ジャータカ物語(岩波少年文庫)	107	モモ 新版(岩波少年文庫)
14	エロシエン童話集(偕成社文庫)	61	シャバナ	108	もりのひなまつり
15	壬さまと九人のきょうだい	62	シャングリラをあとにして	109	やまあらしぼうやのクリスマス
16	おおかみ王ロボ(集英社文庫)	63	少年(新潮文庫)	110	山の上火(集英社文庫)
17	大きな森の小さな家(福音館文庫)	64	すばらしい季節	111	雪の森のリサベト
18	オオサンショウウオ(集英社文庫)	65	たびのなにか	112	ライオンと魔女
19	おかあさんだいすき 岩波子どもの本	66	ちよとま	113	ランパン
20	おさるのまいにち	67	ちよりのすてきなセーター	114	リトルソルジャー
21	おじいちゃんがおけいになったわけ	68	地球をくまなく生きる方法の本(岩波ジュニア新書)	115	脚齋志異(岩波少年文庫)
22	おじいちゃんの口笛	69	つばさをもちたライオン	116	ルラルさんのにわ
23	おちやのじかんにきたとら	70	てのひら島はどこにある	117	わたしとあそんで
24	おとうは青がすき	71	とけいつりのジョニー	118	わたしのろばベンジャミン
25	おばけさんとのやくそく	72	西の魔女が死んだ(新潮文庫)	119	あのねわたしのたからものはね
26	オバケちゃんとおこりんぼママ	73	2ひきのいけないアリ	120	おさととぼうしうり
27	おひさまホテル	74	ネコのタクシー	121	ネコのドクター 小島の冒険
28	オフェリアと影の一座	75	ネコのタクシー、アフリカへ行く	122	いろいろずきん
29	おふろのなからモンスター	76	ねずみのおいしさ	123	はらべおなべ
30	おふうやさん こどものとも傑作集	77	ねずみ女房	124	幽霊を見た10の話
31	おんどりボルケ	78	のんきなりゅう	125	花仙人
32	お江戸の百太郎	79	パーシーの魔法の運動靴	126	ニューヨークのタカ ベールメール
33	顔を持つまで(平凡社ライブラリー)	80	白鳥とくらした子	127	だれもしらない小さな国
34	かしこいボーとまぬけなおかみ	81	バレエをおどった馬	128	マイカのこうのとり
35	風にのってきたマアリー・ポピンズ(岩波少年文庫)	82	ハンカチのうたの花畑	129	おぼけのジョージ おおてがら
36	カモ少年と謎のペンフレンド	83	番ねずみのヤカちゃん	130	こわがりうさぎのホッピーくん
37	川べのちいさなモグラ紳士	84	光草 ストラリスコ	131	町かどのジム
38	科学と科学者のほなし(岩波少年文庫)	85	百まいのドレス	132	しょうぼう馬のマクス
39	きつねのゆうじょかい	86	ヒルベルという子がいた	133	火のくつと風のサンダル
40	祈禱師の娘	87	ファーブルの夏のものがたり	134	クリスマスまでなんなの？
41	きみのとおんなじさ	88	ファルファリーナとマルセル	135	森のなかでみつめたよ
42	きりうりの王さまやつけろ(岩波少年文庫)	89	ふしぎの森のミンピン	136	まほうのスープ
43	くつのおしの店	90	プシダカチ(集英社文庫)	137	そんなとき なんていう？
44	くまごぶろう 改訂新版	91	ぶぶぶらプウタのすてきなみみ	138	ひとまねごころ
45	くまごぶろう おい	92	フレディ 世界で一番かっこいいハムスター	139	きんかんと やえもん
46	くまのプーさん プー横丁にたった家	93	ふんふんなんだかいにおい	140	おそばのきはなぜあかい
47	クラブアート	94	ほくのうちに波がきた	141	きょうりゅうたちのおやすみ

入会状況

たくさんのご入会ありがとうございます。

12月10日現在で、正会員136名・支援会員6名(社)のみなさまにご入会いただきました。「ほかの方にも紹介したい」などのご要望がありましたら、協会案内・会報をお送りしますので事務局まで遠慮なくご連絡ください。



アニメーション貸出図書の利用方法

- ①まず協会(047-402-3111 平日 13時～19時)にお電話ください。メール・Faxでも貸出申込をお受けしておりますが、必ず確認のお電話をお願いしています。※協会ホームページ(<http://animacion.jp>)に貸出中・貸出予定のスケジュールが載っています。
- ②事務局より料金着払いにて発送します。
- ③アニメーションの実施が終了しましたら、速やかに事務局まで料金支払いでご返送ください。次にお待ちの方がいらっしゃいますので、貸出期間は最長でも1か月とさせていただきます。※貸出期間を延長の場合は必ずお電話ください。その期間に予約が入っていなければ延長しますが、予約がある場合は1度ご返却いただき、再度貸出申込みをしていただくことになります。できるだけ多くのアニメーション実施のため、上記の利用方法にご理解・ご協力をお願いいたします。

勉強会のお知らせ

2001年3月に始めた「アニメーション勉強会」が当協会の母体となりました。引き続き、これまでと同じように毎月勉強会を開催いたします。どなたでも、いつでもご出席ください。

- ◆ 毎月第2土曜日 14時～17時
- ◆ 真生会館 2F 第2会議室 (JR総武・中央線「信濃町」徒歩1分)
- ◆ 参加費 (会場代として) 1,000円 (会員の方は500円)

【予読本のご案内】(毎回、2か月先の予読本を決めています)

第95回 アニメーション勉強会 1月10日(土)
予読本『オフェリアと影の一座』ミハエル・エンデ文 フリードリヒ・ヘッヘルマン絵
岩波書店 1,700円+税

第96回 アニメーション勉強会 2月14日(土)
予読本『アルケミスト 夢を旅した少年』パウル・コエーリョ著
山川絳矢・山川亜希子=訳 角川文庫 552円+税

事前のご連絡は不要です。

■ 作戦の体験
予読本『イワンのぼか』
レフ・トルストイ作 金子幸彦訳
岩波少年文庫

「あらすじを語れますか？」
今回の勉強会では、「まとめる読み方」の作戦29番を上級者向けにした形を体験しました。▲いくつかの物語が収められている予読本の中から選んだのは、「愛あるところには神もいる」です。最初に、「同じ物語が絵本になった『くつやのマルティン』」「至光社」を読み聞かせ、皆で物語の流れを思い出してから、質問カードが配られました。このカードは何回受け取っても、ドキドキ、ワクワクしてしまいます。▲本に書かれている内容を、自分の言葉でまとめることができるようになるのが、アニメーションの「まとめる読み方」の仕上げです。それには、あらすじリレーをするのが適切なのですが、子どもたちにはそれがなかなかできません。▲作戦29番は、本来「おやねの色はなにいろですか?」とか「つぎにとおったのはだれですか?」と言おうように、基本情報の5W1Hを押さえ、物語の流れを追っていくことが中心になります。▲今回は、それを上級者向けにした作戦ですが、「問いを『なぜ...』とか『どんなふうに...』という形にするように」▲あらすじを語れるようになるためには、つまり要点を押さえることが必要です。また、この様な質問に答えられるためには、ある程度分量の物語を読む必要があります。

アニメーション勉強会の報告

支援会員様ご芳名

- 支援会員としてご入会いただいた皆様のご芳名を記して感謝の気持ちを表明させていただきます。
- 龍馬進学研究会 様
 - 龍澤 清子 様
 - 芳賀 啓 様
 - 竹内 妙子 様
 - 株式会社スプリックス様
 - 医療法人社団嗣業の会様



「どんぐりにまつわる思い出は?」「なぜとき物語」
板倉聖宣 編 仮説社

後半は、科学よみものを使っての作戦を体験しました。▲最初に、カシの木を科学的に追った美

事務局便り

師走に入ってから事務局も年賀状の準備やら会報2号の発行準備で忙しくなっています。今日は塚本編集長から電話が入り、私が送った画像のCDが開けられないとのこと。どうも保存方法が悪かったようで、急ぎで送り直した。その電話で、「黒木さんの原稿がまだなんです。」と泣きつかれました。

昨日は「今夜中に原稿を仕上げるから」と早めに帰ったはずである。黒木理事長と電話を代わらうとすると「代わらなくて良いですから、原稿を至急送るように伝えてください。」と切られてしまった。みなさん締切は守りましょう。(事務局・飯塚)

編集後記

津田沼の事務局まで、不定期に通うようになって九か月。六年前まで住んでいたところと個々の店はすいぶん様変わりしているところがあるけど、街の印象は、ほとんどかわっていません。いつも混んでいる郵便局や、改善されない道路渋滞、懐かしいというよりちよと溜息。(塚本美術)